

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2007年1月）

発表日：2007年3月7日（水）

～D I一致指数は2月に50%割れの可能性～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

景気動向指数

	系列名	2006												2007 1
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
先 行 系 列	最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	+	+	-	-	+	+	-	-	+	-	-	+	+
	生産財在庫率指数(逆サイクル)	+	+	+	-	+	+	-	+	-	+	-	+	-
	新規求人数(除学卒)	+	+	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-	+
	実質機械受注(船舶・電力除く民需)	+	+	-	+	+	+	-	-	-	+	-	+	-
	新設住宅着工床面積	-	+	+	+	-	+	-	+	+	+	+	+	-
	耐久消費財出荷指数(前年比)	+	+	+	-	+	-	+	-	+	+	-	0	-
	消費者態度指数	+	+	+	+	0	-	-	-	-	-	+	-	0
	日経商品指数(42種総合)ー前年比	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-
	長短金利差	0	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
	東証株価指数(前年比)	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
投資環境指数(製造業)	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
中小企業売上げ見通しD.I.	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	+	
先行指数		79.2	91.7	50.0	50.0	79.2	58.3	33.3	25.0	25.0	58.3	25.0	37.5	35.0
一 致 系 列	生産指数(鉱工業)	+	-	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+
	生産財出荷指数(鉱工業)	+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	大口電力使用量	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	稼働率指数(製造業)	+	-	-	+	-	+	-	+	-	+	+	+	+
	所定外労働時間指数(製造業)	+	+	+	+	+	+	0	-	-	-	+	+	+
	投資財出荷指数(除輸送機械)	-	-	-	+	+	+	+	+	-	0	0	+	-
	商業販売額指数(小売業)ー前年比	0	+	-	-	-	-	+	+	+	+	-	-	-
	商業販売額指数(卸売業)ー前年比	+	+	-	-	+	+	+	-	+	-	-	-	-
	営業利益(全産業)	-	-	-	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-
	中小企業売上高(製造業)	+	-	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+
有効求人倍率(除学卒)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	
一致指数		77.3	45.5	27.3	81.8	81.8	90.9	77.3	81.8	54.5	68.2	59.1	63.6	55.6
遅 行 系 列	第3次産業活動指数(対事業所サービス)	+	+	-	+	+	+	-	-	+	+	+	0	-
	常用雇用指数(製造業)(前年同月比)	0	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-
	実質法人企業設備投資(全産業)	+	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	+
	家計消費支出(全国勤労者世帯)(前年同月比)	-	-	-	+	-	+	+	-	-	-	+	+	+
	法人税収入	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+
	完全失業率(逆サイクル)	+	+	+	+	+	-	+	-	+	-	+	+	+
遅行指数		75.0	83.3	66.7	100.0	83.3	83.3	66.7	33.3	66.7	33.3	83.3	75.0	75.0

(出所) 内閣府「景気動向指数」

(注) 1. 3ヵ月前の値と比較して改善は+、横ばいは0、悪化は-として表示。

○ D I 先行指数は35.0%、D I 一致指数は55.6%

本日公表された1月の景気動向指数(速報)では、D I 先行指数が35.0%、D I 一致指数は55.6%、D I 遅行指数は75.0%となった。また、C I 先行指数は前月比+0.8%の103.3、C I 一致指数は同▲0.8%の112.5となっている。

○ 一致D I は2月に50%割れの可能性大

D I 一致指数は55.6%と10ヵ月連続で50%を超えた一方で、D I 先行指数については35.0%と3ヵ月連続で50%を割り込んだ。2006年7月以降、50%割れ傾向が継続している。景気に対して半年程度先行するといわれているD I 先行指数からは、今後、景気はいったん減速する可能性が高いことが示唆されている。

既に景気減速の兆候は出始めている。1月のC I 一致指数は前月比▲0.8%と4ヵ月ぶりに低下した。ま

た、先日公表された1月の鉱工業生産は前月比▲1.5%と低下したことに加え、2月の予測指数も前月比▲1.8%と低下が見込まれており、1-3月期の生産は6四半期ぶりに減少する可能性が高まっている。在庫が高止まりしている状況から考えて、当面、生産は緩やかに減速していきだろう。D I一致指数の採用系列には生産関連指標が多く含まれているため生産指数との連動性が高いことに加え、2月分の比較対象となる11月の水準が比較的高いことなども考慮すれば、2月のD I一致指数は50%を割り込む可能性が高い。その先についても、半年程度はD I一致指数は50%近傍での推移となることが予想される。今後、景気の一服感が意識されてくるだろう。

○ 先行D Iの50 超えも近いか

一方、D I先行指数については徐々に悪化に歯止めがかかってくる可能性がある。1月のC I先行指数も前月比+0.8%と上昇するなど、実際に下げ止まりの気配も見え始めた。

2月のD I先行指数については、現時点で、中小企業売上げ見通しD Iと東証株価指数は改善、日経商品指数(42種)と長短金利差は悪化の2勝2敗となっている。残り6系列についてはまだなんとも言えない。このように、2月の先行D Iが50を上回ることができるとははっきりしないが、少なくともこれまでのように悪化を続けている状況からは脱しつつあるようだ。これまでの景気動向指数は、「D I一致指数にみる足元の好調さと、D I先行指数にみる先行きの減速懸念」という構図が続いていたが、今後徐々に「D I一致指数にみる足元の景気減速と、D I先行指数にみる先行きの持ち直し期待」という構図に変わってくる可能性がある。今後先行D Iが持ち直してくるようであれば、2007年前半に予想される景気モメンタム鈍化は短期間に終了するという見方が強まってくる。今後の景気動向指数をみる上でのポイントは、先行D Iがいつ50%を傾向的に上回り始めるかという点だろう。

